

座談会

境野健太郎

工学院大学建築学部建築学科准教授

裏 敏廷

井井大学工学部建築都市環境工学科助教

日比野拓

日比野設計 会長

裏木 隆

日比野設計 福祉施設研究所所長

真栄城嘉敦

日比野設計 福祉施設研究所副所長

1 章

これからの
福祉が
向かうところ

009



2 章

新しい
設計事務所と
高齢者施設
を考える

041



福祉施設を
つくるなら

- 選ばれる施設になるために、まずはコンセプトから
- ロゴやサインはブランディングの武器
- 将来の社会的変化に対応できる施設を
- 高齢者福祉施設は、病院ではない

福祉施設と
設計者

- 施設づくりに伴走してくれる、よい設計者を選ぼう
- 設計者さがしのコツ
- 設計費や総工費。避けることのできないお金の話
- 設計事務所との上手な付き合い方
- みんなで会議が面白い

福祉施設の
デザイン

- デザインの可能性は無限大
- 適切な建物の構造を決める
- 勾配屋根なら雨漏りしない？
- コンクリート打放しとタイルの外壁
- 高齢者施設に最適の素材えらび
- おいしく食べる空間づくり
- 見逃しがちな、庭や家具こそ大切に
- 建設費高騰時代を生き抜く既存施設の利活用

福祉の未来 を話そう

097



3章

- 1 舘浦 圭(縁「ゆかり」春日部センター／
縁「ゆかり」野田介護予防センター)
- 2 玉田香介(かなしょうず園)
- 3 赤間源太郎(たんぼぼの家・柴胡苑)



福祉施設の質を上げる部材・素材・設備を選ぼう! 137

ルノン／東リ／三協アルミ／大光電機／
パソナニック株式会社 空質空調社



福祉研の海外視察 148

デンマークの高齢者施設を訪ねて



障がい者福祉施設の設計について 154



ABOUT FUKUSHIKEN 156

福祉研の しごと



- 1 縁「ゆかり」春日部センター(埼玉県春日部市) 033
- 2 縁「ゆかり」野田介護予防センター(千葉県野田市) 037
- 3 グループホームまんさく(福井県敦賀市) 089
- 4 湯楽苑(長崎県雲仙市) 093
- 5 グランドオーク百寿(大阪府堺市) 129
- 6 北野学園(福岡県久留米市) 133

研究者たちと
語り合う、
高齢者福祉を
めぐる
現在とこれから



高齢者福祉を取り巻く環境は、大きく様変わりしてきました。2025年9月15日時点での日本の65歳以上の高齢者人口は3619万人。前年から5万人減少、総人口に占める割合は0・1ポイント上昇して、過去最高の29・4%となりました。世界に先駆けて超高齢社会を経験している日本。介護サービスの需要が増加する一方で、担い手となる医療・福祉従事者が不足するなど多くの社会課題も生まれ、状況は複雑化するばかりです。

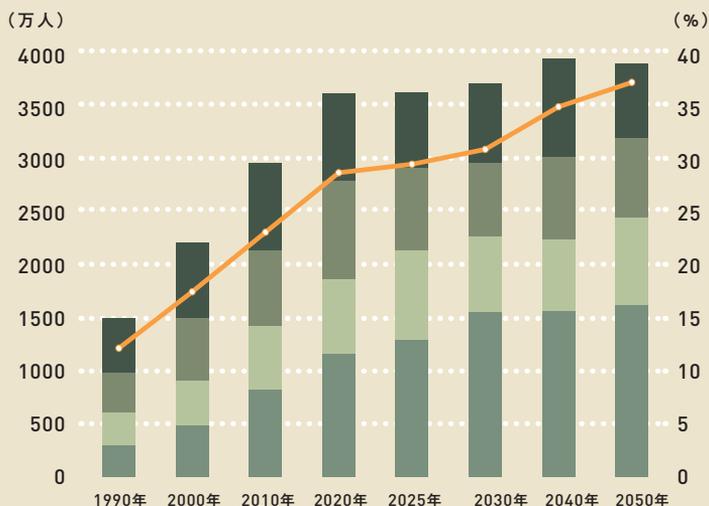
それでも確かなのは、お年寄りも介護の担い手も、そしてそれを取り囲む社会も、皆が健やかに朗らかに生きていくために、これから高齢者福祉施設が担う役割はさらに大きくなるということ。そんななかで地域に求められるのは、どのような施設なのでしょう？ 高齢者福祉施設の研究を行う二人の識者を招いて座談会を行いました。

——まずはお二人の研究領域などを教えてくださいいただけますか。

裴敏廷 べいみんていん わたしは福井大学で教えています。高齢者・障がい者・医療依存度の高い人に配慮した持続可能で安全・安心な施設計画を研究しています。もともと韓国で大学を卒業したあとに、福祉先進国である日本で勉強したいと思い来日しました。

境野健太郎 わたしは現在は工学院大学で教えています。大学在学時に、特別養護老人ホームにおいて「個室」によるユニットケアやグループホームの制度化の推進力となった外山とやま義ただし先生の研究室で学んで以降、各種の福祉施設についての研究を行っています。

65歳以上の人口および割合の推移



グラフは総務省統計局が2025年9月15日に発表した報道資料「統計トピックスNo.146」に基づく。日本の総人口に占める高齢者の割合は、1950年の4.9%以降、一貫して上昇を続けている。2005年に20%を超え、2024年には29.3%に。2025年の65歳以上人口は3619万人と、前年から5万人減少し、総人口に占める割合は29.4%で過去最高となった。人口4000万以上の38か国のうち、これは最高の水準。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、この割合は今後も上昇を続け、2040年には34.8%、2070年には38.7%となる見込みだ。

○ — 65歳以上の人口の割合

■ 65～69歳の人口

■ 75～79歳の人口

■ 70～74歳の人口

■ 80歳以上の人口

001



選ばれる施設に

なるために、

まずは

コンセプトから

近年、あらゆる業種で二極化が顕著です。高齢者福祉の分野もしかり、入居者や利用者をしっかりと獲得し、拡大を視野に入れる施設がある一方で、利用者を思うように獲得できず、閉業に追い込まれたデイサービスや老人ホームも少なくありません。地域的に利用者数に差があることも、その理由のひとつですが、利用者が多いはずの地域でさえ、入所待機者がいる施設とそうでない施設があるのが現状です。

施設を運営するならば、当然ながらうまくいくに越したことはありません。選ばれる施設には、必ずしっかりとしたコンセプトや理念、特徴があります。「食事がおいしい」「施設職員のサービスが細やかで、丁寧」「利用者の快適な環境を重視している」「家族への説明が細やか」「施設環境が素晴らしい」「交通アクセスが便利」「豊富な自然に囲まれていて環境がよい」……。どんなに小さなことであれ、それだけは他の施設に負けない、自慢できるポイントがあるのです。

明確なコンセプトによって他の施設との差別化ができていれば、次はそれを具体的な施設のイメージとしてアピールすることが重要になります。最近の企業のイメージ戦略の言葉を借りれば「ブランディング」ですが、全世界をターゲットにする大企業のようなブランディングは必要ありません。老人ホームやデイサービスなどの高齢者福祉施設がターゲットにするのは、原則的には利用者エリアに住んでいる方たちです。ですから、大切なのは「地域いっちゃん」の感覚。その地域で秀でていることが地元浸透していけば、自ずと選ばれる施設となつ

社会状況が
変わっていくなかで
次の50年を戦うには、
すこし未来を先取りした
施設にしなければならぬ。
それが地域の手本となれば
うれしいです。



A TALK WITH

玉田医療福祉グループ
(医療法人医秀会／社会福祉法人天年会／
株式会社UNSUNG)
理事長
玉田香介

1984年三重県鈴鹿市生まれ。2011年鈴鹿中央総合病院に入職。2012年より天年会・医秀会理事長に就任。2017年玉田クリニックを開業。同院長として、日々診療にあたる。
<https://tamada-group.jp/>

社会福祉法人天年会
三重県鈴鹿市
用途・特別養護老人ホーム

かなしyoungず園

運営施設

三重県鈴鹿市にある社会福祉法人天年会は1980年の創設。三重県鈴鹿市を拠点に入所者支援を行い続け、半世紀の節目が見えてきています。この法人の特徴は、医療法人との連携の強さ。透析センターを擁する内科クリニックが並走する介護サービスは、とても心強いものです。クリニックの医師として日々現場に立ちながら、天年会の理事長も務める玉田香介さん。医療と福祉を、地域に還元していきたいと話します。2027年の完成を目指す「かなしやうず園」は、どんな施設になるのでしょうか。

玉田 私どもが今回福祉研さんに建て替えの設計をご依頼している「かなしやうず園」は1981年開園の特別養護老人ホーム。築40年を超えてかなり老朽化してきました。その建て替えにあたっては、単なる特養ではなくて、地域に開かれた施設にしたい、いろんな世代の方が集って、そこに小さな文化が生まれていくような場所にしたい。そんな思いが強くて、これは、設計事務所をきちんと考えないといけないぞと。インターネットで検索してるうち、福祉施設と幼児施設に特化して設計を行っている日比野設計さんにたどり着いたんです。

福祉研 コンタクトをいただいですぐに、私どもも会社までチームの皆さんでお越しいただきましたよね。実際には他社を含めていくつかの候補があり、コンペでお選びいただいて、私たちが一緒にすることになりました。

玉田 「かなしやうず園」は鈴鹿市内では二番目に古い高齢者福祉施設です。だから建て替えのタイミングも市内の他施設より早くやってきました。その時に、今と同じような施設をつくってしまったとして、じゃあその次の40〜50年間をその施設で戦えるのかというと、かなり心許ない。すこし未来を先取



エントランスホールからつながる地域交流ゾーンの「まちキッチン」。入居者の会合等はもちろんのこと、街に開かれたシェアキッチンとしても使うことができる。黒壁は木材を墨で塗ったもの。

りして、「新しい福祉」を見せるような場所にしなければならぬと思っていました。私たちの後に建て替えの時期がやってくる施設に取り残されるようなものではなく、むしろお手本になるような、「あんな施設にしたいな」と思わせるような施設にしたい。うちの建て替えを機に、この地域のほかの施設も変わっていったらいい。ゆくゆくは福祉そのものが変わっていくような流れをつくれたらと思うんです。

福祉研 これまでの「かなしやうず園」は、2階建ての従来型・多床室でした。これを今回はユニット型にします。

玉田 これまでの施設は、いわゆる病院に近いようなつくりで、どうしても個別のケアなどを手厚くは行いづらい。そこから大きく変えていきます。

福祉研 コンペの段階から、ユニット型の住居棟と、管理部分と地域交流のための場を収めた棟をつくるという提案で、そこから大きくは変わることなく、

グランドオーク百寿

大阪府堺市



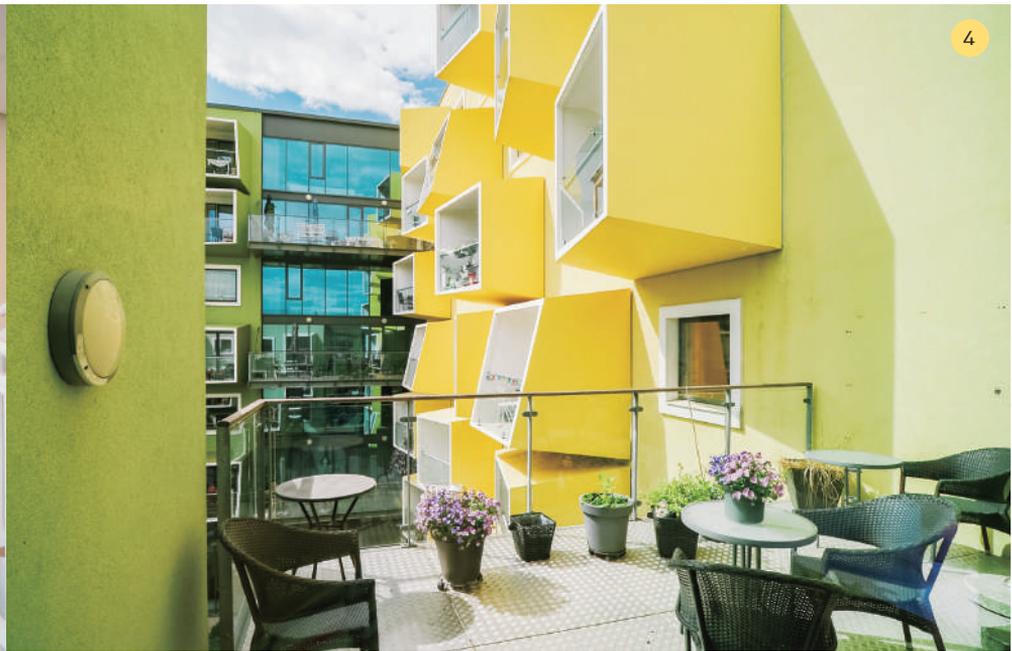
住宅街にある特別養護老人ホーム。周辺住民に予定敷地に望む機能についてのアンケートを行い、その意見を採用。4階建ての1階部分に、一般利用も可能なカフェと売店をつくった。



周辺の住民で賑わう1階の「OAK CAFE」。特養と同じキッチンで料理をつくっている。家族の面会時などには、利用者と一緒に食事やカフェを楽しむこともできる。



2～3階の特養の居住ゾーンは10室のユニット形式。ユニットごとに設けられる食堂とキッチンは、それぞれにテーマカラーを設定し、自分のユニットへの帰属意識を持てるように。



鍵はかけない。
バルコニーにも
自由に出たっていい!



今回視察したのは、デンマークの首都コペンハーゲンにある「Ørestad Plejecenter（オアスタッド・プライエセンター）」。2012年にオープンした市運営による介護付き住宅です。

センターへ到着すると、建物脇から幼稚園児たちがワイワイと出てきました。センター長によると、日常的に幼稚園児が来て中庭で遊んでいるのだそう。よい環境ですね！ 建物は中庭を挟んで東棟と西棟に別れ、廊下でつながれたコの字型のプランです。エントランスと中庭に面したホールは、黒を基調にモダンにまとめられ、デンマークが生んだ名デザイナー、ハンス・ウェグナーによるYチェアが！ 日本の高齢者施設では、安全性ばかりを優先したイスやテーブルが置かれがちですが、さすがはデザイン大国デンマークだと感心してしまいます。こちらのセンターは「芸術と文化」をテーマに掲げ、アートが至る所に飾られます。そのためか、廊下は壁も天井も白が基調。一方で廊下の床の色を各階で変えて視認性を確保していました。

共有のダイニング、リビングもまた、家具や照明、カーテンに至るまで細部に気配りされたセレクト。介護付き住宅ですから、リハビリ器具なども置か



- ④ バルコニーにも花やイスが出るなど入居者の個性がにじむ。短い夏や外気浴を楽しむ北欧らしさを感じる場所。日本のようにバルコニーに鍵をかけて出るのが制限することはまるでしないそう。管理しすぎず、個人の権利をしっかりと尊重する姿勢が窺えた。
- ⑤ 共有のサロン。
- ⑥ ギャラリーのような階段の踊り場。
- ⑦ 飾られるアートには入居者によるもの。